

一般質問

一般質問議員と主な項目

6月21日登壇

- 齋藤 剛一 議員
 - ・ 市財政運営の今後のあり方について
 - ・ 市としての農業振興に対する取り組みについて
- 大橋 庄信 議員
 - ・ 宙に浮いた年金記録の対応について
- 菅野 富夫 議員
 - ・ 生活道路の改良・舗装促進について
 - ・ 子供の医療費無料の年齢引き上げについて
- 大條 一郎 議員
 - ・ 子育て支援策について
 - ・ ごみの減量とCO2の削減について
 - ・ グリーン購入の取り組みについて
- 堀江 泰幹 議員
 - ・ 小・中学生の通学時の交通安全対策について
- 大橋 良一 議員
 - ・ 有害鳥獣対策について
 - ・ 生活道路の整備について
 - ・ 市民憲章の制定と市の木・花・鳥の指定について
 - ・ 地産地消と食農教育について

6月22日登壇

- 中村 正明 議員
 - ・ 学習交流館施設の必要性について
 - ・ 梁川町工業団地周辺農作物等育成障害について
- 高橋 一由 議員
 - ・ 嘱託臨時職員採用問題について
 - ・ 合併後の市民説明会開催について
- 半澤 隆 議員
 - ・ こんなことがあっていいのか「市民協働推進専門員」の採用について
- 佐々木 彰 議員
 - ・ 伊達市における今後の入札制度について
 - ・ 市民協働推進室の役割について
- 佐々木英章 議員
 - ・ 市長の政治姿勢について
 - ・ 高校普通科全県自由学区について
 - ・ 年金問題について
 - ・ 障がい者支援について
 - ・ 図書館及び美術館の充実について
- 小野 誠滋 議員
 - ・ 水防災対策事業について
 - ・ WTO、豪州FTA（自由貿易協定）の関税の国の政策を市としてどのように考えているかについて

伊達市財政運営の

今後のあり方について

齋藤 剛一 議員

Q 私達伊達市の財政は経常収支比率99%と全国市町村の中で最悪の位置にあり、市の借金である市債は平成17年度末で334億円、平成27年度末は333億円と予想しており、20年後の37年度については試算されていないようです。20年後の生産年齢人口は現在の3分の1とも

A 本市の財政状況につきましましては、議員ご指摘のとおり、平成17年度の経

常収支比率が、臨時財政対策債、減税補てん債を除いた経常一般財源で積算した場合、99%となっております。財政の硬直化が厳しく、慢性的な財源不足が生じる事態となっております。新市建設計画の具現化を考えますと、さらに厳しい状況が想定されますので、財政健全化の最重要課題と認識しております。また、平成37年度の地方債残高と財政状況については、現在は試算しておりませんので、わかりかねますが、計画から実施、評価の制度が確立されていけ

ば、財政の健全性は確保され

理解を賜りたいと思います。

宙に浮いた年金記録の

対応について

大橋 庄信 議員

Q 年金制度は、始まった当初から、長く自治体が窓口になり、実施団体の応援を受けながら進められてきました。景気の動向により、

倒産あるいは転居等による年金種別、住所等の変更も背景にあるようですが、被保険者は大変な不安を抱いております。公の機関の信頼失墜は大



であります。市民は安心して年がとれる行政に期待しています。本市において、この問題をどう受けとめているか。このような事態の中で、受給漏れはないか。これらの不安の問い合わせや苦情にどのように対応しているか。旧町単位の年金記録は保管されているか伺います。

A 国民年金制度は、本格的な高齢社会の到来を間近に控えて、全国民の老後の所得保障の中核を担う制度としての役割を果たしてい

ます。制度を揺るぎないものにするために、確実な制度運用はもとより、一層の信頼性の確保が求められるというのは、議員ご指摘のとおりです。事務の一部を担ってきた市町村行政としても、誠に遺憾なことで、憂慮しているところです。社会保険庁、社会保険事務所と連携を図り、可能な限り問題解決に対処します。

また、市町村は単に給付記録の照会にとどまるため、個々の受給漏れの有無までは確認ができない状況ですが、問い合わせや苦情については、その

の都度、社会保険事務所に連絡照会をするなどの対応を行っています。次に、旧町の国民年金記録の保管状況ですが、伊達・霊山・月館については、磁気媒体、電子化移行をする前の紙の個人カード、被保険者台帳が、現在も保管されています。また旧5町分の事務移管時までの記録を、磁気媒体として保有しています。

生活道路の改良促進を

菅野 富夫 議員

Q

生活道路の改良舗装を願う声は多くの市民の声です。現道舗装など身近な生活道路の、それぞれの地元の要望が強いところの予算が少なくと思います。道路維持費も含めて、現道舗装や側溝の整備の予算を増やす事を願うものです。雨のたびに砂利が流されたりしている道路の現道舗装でもと願う声があるので伺います。また、基幹道路整備だけでなく、現道舗装など年次計画を立てていく必要があると思いますが所見を伺います。また、このような身近なものは、支所の権限も強化していく事も検討すべきだと思ひます。

A

維持管理については、各総合支所において、それぞれ当年度計画分の必要額として予算計上し、なおかつ予算措置の必要がある箇所については、今後総合支所と十分に調整をはかり、所要の措置をしたいと考えています。また、現道舗装や側溝整備も計画的に整備をすすめて参ります。これらの財源は、市単

子育て支援策について

大條 一郎 議員

Q

群馬県太田市では、第3子以降の妊娠、出産から中学卒業までの基本的な子育て費用を、20年度から全額負担する計画があるそうです。計画では、妊産婦検診や出産費用、さらに保育費用、小中学校の入学費用、給食費、医療費や中学の修学旅行費などを全額負担することとあります。この計画は、仁志田市長のローカルマニフェストにある考えと軌を一にするものと思います。子育て支援策強化のため、伊達市においても、この太田方式を採用すべきと考えます。市長の所見を伺います。

A

太田市の第3子からの親負担ゼロの構想での負担総額は、年間約5億円が見込まれていますが、伊達市で試算をすると約1億5000万程度の負担が見込まれます。伊達市としては、限られた予算、厳しい財政事情を考慮し、現段階でできること、安心して子育てができる環境整備をさらに検討していきたいと考えています。なお、本市としての子育て支援策として、本年4月から妊婦健康診査費用を2回分から15回分に、歯科検診費用1回を公費負担としました。今後とも国県とも連動できる方策というものを進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解を賜りたいと思ひます。

市全域の通学路安全マップ作成を

堀江 泰幹 議員

Q 通学時の児童生徒の安全対策については、親はもちろん先生方が一番の神経を使うところであり、事故未然防止対策について次の6点について伺います。

- ① 通学路の指定要件
- ② 通学路マップの活用方法
- ③ 通学路の防犯灯の設置数
- ④ 子供の避難場所数
- ⑤ 堰本小学校通学路への歩道の設置について

A ⑥ 白根小学校プールまでの安全対策について

① 子供たちにとって安全、安心な通学路の確保を目指し、交通事故や転倒事故、犯罪被害、自然災害などに遭わないような通学路を指定するように各学校に指導しています。

② 各小中学校において通学路マップを作成し、児童、生徒、保護者等に知らせ、登下校時の安全確保にご協力をいただいています。また、地域の見守り隊、スクールガードリーダー等にも配布し活用をはかっています。

③ 市内における現在の街路灯の設置数は、5879灯となっており、夜間通行時には支障がないものと理解しています。

④ 通学路沿線の

避難場所、子ども110番等の児童駆け込み所の設置数は、市全体で約1700カ所あり児童生徒の安心、安全な通学路の確保と新たな設置箇所等について検討を行います。

⑤ 現在まで現地調査をしてきましたが、実施に向けて、一部家屋移転等も伴うことから、

さらに調査をすすめ、検討して行きます。

⑥ プールまでの道路は、県道平松梁川線で、合併以前に800mの区間を安全対策上簡易歩道として、かげぶた、土どめ工事などを実施し、生徒の安全を確保してきました。

生活道路の整備計画について

大橋 良一 議員

Q 道づくりは街づくりの基本であり、住民が安全・安心で円滑な交通の流れを確保することは行政としての責務です。幹線市道等はかなり整備改良をされていますが、特に、中山間地域の生活道路等は袋小路の道、路肩が弱い道、路面が悪い道、急勾配の道、曲がり角がきつい道などが点在しているのが実情です。一刻を争う火災や災害等緊急時に緊急車両が現場へスムーズに到着するためには、安全に通行・運行できる道路が不可欠です。また、生活道路整備改良は生活する上での基本でもあり、計画的に進めるべきで危険を未然に回避するためにも、狭あいな道

路を解消し、災害に強い街づくりを形成するためにも、市内全域の道路状況の実態を把握され、問題点を整理し防災にも配慮した生活道路等の再点検を早急に進めるべきと思います。そこで本市の道路整備計画の状況についてお尋ねします。

A 本市が管理する道路は、3798路線、延長は128万6094mを有しています。幹線道路、人家への道路で生活に密着した集落内の道路も、それぞれの役割を持っていきますので、これも重要な道路です。これらの整備については、長い延長を有していることから、多く

の費用を要するため、長期計画の中で、緊急性、必要性はもちろんのこと、地元の要望等を反映させながら、順次実施しているところです。

これらの整備の中で、生活道路と呼ばれる集落内の道路については、単に輸送を目的とするばかりではなく、生活排水の処理等にも配慮をしながら、周辺環境の整備をしているところとです。

学習交流館の必要性和 梁川工業団地周辺農作物等 育成障害について

中村 正明 議員

Q 子供たちの健全育成、学習力の向上、各種団



堰本小学校通学路